

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-266484

(43)公開日 平成10年(1998)10月6日

(51)Int.Cl.⁶

E 0 4 D 13/03

識別記号

F I

E 0 4 D 13/03

J

審査請求 未請求 請求項の数3 O L (全 4 頁)

(21)出願番号 特願平9-69460

(22)出願日 平成9年(1997)3月24日

(71)出願人 000005832

松下電工株式会社

大阪府門真市大字門真1048番地

(72)発明者 長部 彰弘

大阪府門真市大字門真1048番地 松下電工株式会社内

(72)発明者 清脇 一夫

大阪府門真市大字門真1048番地 松下電工株式会社内

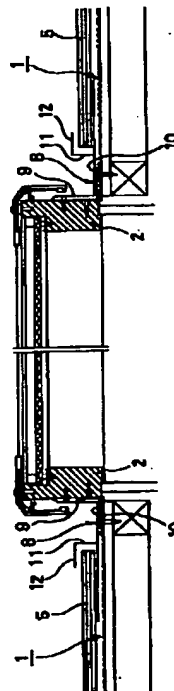
(74)代理人 弁理士 西澤 利夫

(54)【発明の名称】 採光窓の水切り防水構造

(57)【要約】

【課題】 採光窓と瓦との間の防水性を確実とする。

【解決手段】 樋状の水切り部材(8)が採光窓側端縁に沿って近接して設けられ、瓦下への雨水等の横走りが防止されている。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 樋状の水切り部材が採光窓側端縁に沿って近接して設けられ、瓦下への雨水等の横走りが防止されていることを特徴とする採光窓の水切り防水構造。

【請求項2】 水切り部材には、瓦側に位置する立上がり壁部の上端に瓦押え片が外方に向けて延設されており、採光窓側に位置する平板瓦の一端端縁部が、その瓦押え片とこれより下方に位置する屋根下地部との間に差し込まれている請求項1記載の採光窓の水切り防水構造。

【請求項3】 袖瓦として配設される和洋瓦の一端縁に位置する垂直面部が、水切り部材の瓦側に位置する立上がり壁部を跨いで水切り部材上に配置され、和洋瓦と水切り部材とで囲まれて形成される空間内に封止材が詰められている請求項1記載の採光窓の水切り防水構造。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、採光窓の水切り防水構造に関するものである。さらに詳しくは、この発明は、瓦との間の防水性を確実にすることのできる採光窓の水切り防水構造に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来より、住宅等の建築物の屋根部には、採光や換気などのために採光窓が設けられてきている。採光窓の設置にともなう屋根部には開口部が形成されることから雨水等が屋内に浸入することのないように、採光窓には防水性の付与が肝要となっている。

【0003】そこで従来では、たとえば図5及び図6に示したように、屋根下地部(1)に取付け固定される採光窓木枠部(2)の側端縁に沿って防水カバー(3)を取り付けてきている。防水カバー(3)は、内周縁部及び外周縁部の各々の表面に、内側に傾倒する複数の水切りひれ(4)を備えた部材であり、内周縁部を採光窓木枠部(2)に、また、外周縁部を屋根下地部(1)の下地面上に沿うように当接して取り付けられる。瓦は、このようにして屋根下地部(1)に配設された防水カバー(3)の外周縁部に瓦葺き施工される。瓦に図5に示したような平板瓦(5)が使用される場合には、平板瓦(5)を防水カバー(3)にそのまま載置する。一方、図6に示したような和洋瓦(6)の場合には、その形状的特徴から端縁部が防水カバー(3)から浮き上がるため、和洋瓦(6)の端縁と防水カバー(3)との間に封止材(7)が詰められる。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、たとえばこれら図5及び図6に示される防水カバー(3)では、瓦との間の防水性が確実にとはなっていないのが現状である。瓦(5、6)と採光窓の間を流れたり、ここに溜まったりする雨水等は、平板瓦(5)の場合には、図5に示したように、平板瓦(5)と防水カバー(3)と

の間から浸入し、また、和洋瓦(6)の場合には、図6に示したように、和洋瓦(6)と封止材(7)との間から浸入し、瓦(5、6)の下を横走りすることがしばしばあった。防水カバー(3)表面に設けられた水切りひれ(4)は、そのような雨水等の横走りを十分に阻止することはできない。

【0005】この発明は、以上の通りの事情に鑑みてなされたものであり、従来の採光窓の防水構造の欠点を解消し、瓦との間の防水性を確実にすることのできる採光窓の水切り防水構造を提供することを目的としている。

【0006】

【課題を解決するための手段】この発明は、上記の課題を解決するものとして、樋状の水切り部材が採光窓側端縁に沿って近接して設けられ、瓦下への雨水等の横走りが防止されていることを特徴とする採光窓の水切り防水構造を提供する。

【0007】

【発明の実施の形態】以下、図面に沿ってこの発明の採光窓の水切り防水構造についてさらに詳しく説明する。図1及び図2は、各々、この発明の第1の実施形態を示した断面図及び要部斜視図である。

【0008】この発明の採光窓の水切り防水構造では、樋状の水切り部材(8)が採光窓側端縁に沿って近接して設けられる。図1及び図2に示した水切り防水構造では、水切り部材(8)に備えた一方の立上がり壁部(9)が採光窓木枠部(2)の側端面に当接固定され、底板部(10)が屋根下地部(1)の下地面上に載置されている。水切り部材(8)は樋状に形成されているため、他方の立上がり壁部(11)は立上がり壁部(9)に対向している。これら対向する一対の立上がり壁部(9、11)により、図1及び図2に示した水切り防水構造では、それら立上がり壁部(9、11)間に雨水路が形成され、雨水等が瓦側に向かうのを瓦側に位置する立上がり壁部(11)によって阻止しながら軒下側に雨水等を積極的に排水するのを可能としている。

【0009】また、図1及び図2に示した水切り防水構造では、水切り部材(8)の瓦側に位置する立上がり壁部(11)の上端に瓦押え片(12)が外方に向けて延設されてもいる。この瓦押え片(12)は、平板瓦(5)の瓦葺き施工に対応して設けられるものである。平板瓦(5)が屋根面に瓦葺き施工される場合には、採光窓側に位置する平板瓦(5)の一端端縁部をその瓦押え片(12)とこれより下方に位置する屋根下地部(1)との間に差し込んで葺く。こうすることにより、雨水等が水切り部材(8)の立上がり壁部(11)を越えて瓦側に向かうことがあっても、瓦押え片(12)によって雨水等が平板瓦(5)の下まで回り込むのを防止することができる。また、瓦押え片(12)は、平板瓦(5)の端縁切断面を覆い隠し、仕上がり外観を良好とするのにも寄与する。

【0010】こうして、図1及び図2に示した水切り防水構造では、瓦下への雨水等の横走りが防止され、瓦との間の防水性が確実となっている。図3及び図4は、各々、この発明の第2の実施形態を示した断面図及び要部斜視図である。これら図3及び図4に示した水切り防水構造においても、樋状の水切り部材(8)が採光窓側端縁に沿って近接して設けられており、水切り部材(8)に備えた一方の立上がり壁部(9)が採光窓木枠部(2)の側端面に当接固定され、底板部(10)が屋根下地部(1)の下地面上に載置されている。

【0011】この水切り部材(8)では、底板部(10)の幅を図1及び図2に示した水切り部材(8)のそれよりも拡大している。また、立上がり壁部(9)に対向する立上がり壁部(11)を立上がり壁部(9)よりも低くしている。このような水切り部材(8)は、和洋瓦(6)の瓦葺き施工に対応して設けられる。採光窓の近傍に袖瓦として配設される和洋瓦(6)には、一端縁に垂直面部(13)が垂下延設されている。この垂直面部(13)が、水切り部材(8)の瓦側に位置する立上がり壁部(11)を跨いで水切り部材(8)上に配置され、和洋瓦(6)が瓦葺き施工される。そして、図3及び図4に示した水切り防水構造では、和洋瓦(6)と水切り部材(8)とで囲まれて形成される空間(14)内に封止材(7)が詰められる。

【0012】このようにして、図3及び図4に示した水切り防水構造では、防水部材(8)の採光窓側の立上がり壁部(9)とこれに対向する和洋瓦(6)の垂直面部(13)との間に雨水路が形成され、雨水等を軒下側に積極的に排水することができる。また、和洋瓦(6)と水切り部材(8)とで囲まれて形成される空間(14)内に詰められた封止材(7)及び水切り部材(8)の瓦側の立上がり壁部(11)によって、和洋瓦(6)の垂直面部(13)と水切り部材(8)の底板部(10)との間から浸入するおそれのある雨水等を阻止することができ、瓦下への雨水等の横走りを防止可能としている。採光窓と瓦との間の防水性は確実となっている。

【0013】また、図3及び図4に示した水切り防止構造では、水切り部材(8)の底板部(10)が幅広とな

っていることから袖瓦の瓦葺き施工が容易で、しかも袖瓦として配設される和洋瓦(6)に垂直面部(13)が一端縁に設けられていることによりこの垂直面部(13)が防風壁としても機能し、防水性の向上に効果的となっている。

【0014】たとえば以上に示される水切り部材(8)は、金属板、樹脂板等の適宜なものから形成することができる。もちろんこの発明は、以上の実施形態によって限定されるものではない。細部については様々な態様が可能であることは言うまでもない。

【0015】

【発明の効果】以上詳しく説明した通り、この発明によって、採光窓と瓦との間の防水性が確実となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明の第1の実施形態を示した断面図である。

【図2】図1に示した水切り防水構造の要部斜視図である。

【図3】この発明の第2の実施形態を示した断面図である。

【図4】図3に示した水切り防水構造の要部斜視図である。

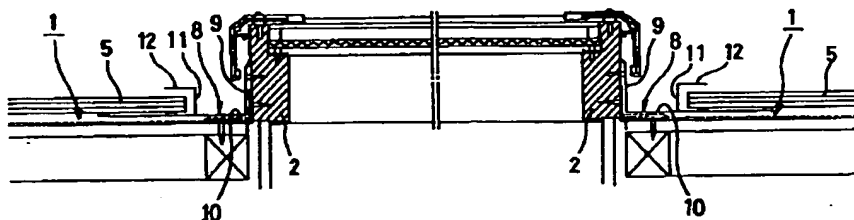
【図5】従来の採光窓の防水構造の一形態を示した断面図である。

【図6】従来の採光窓の防水構造の一形態を示した断面図である。

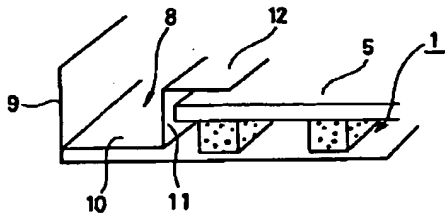
【符号の説明】

- 1 屋根下地部
- 2 木枠部
- 5 平板瓦
- 6 和洋瓦
- 7 封止材
- 8 水切り部材
- 9, 11 立上がり壁部
- 10 底板部
- 12 瓦押え片
- 13 垂直面部
- 14 空間

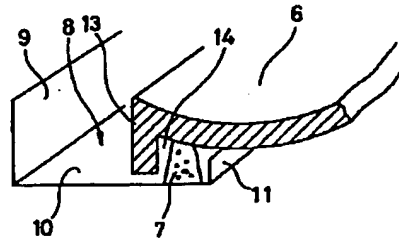
【図1】



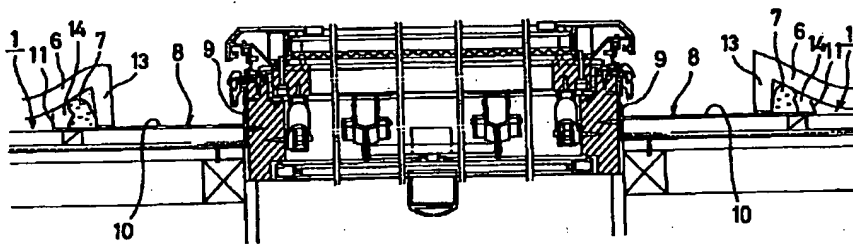
【図2】



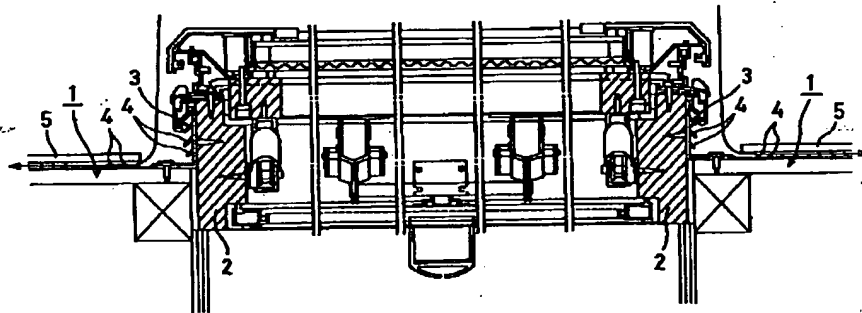
【図4】



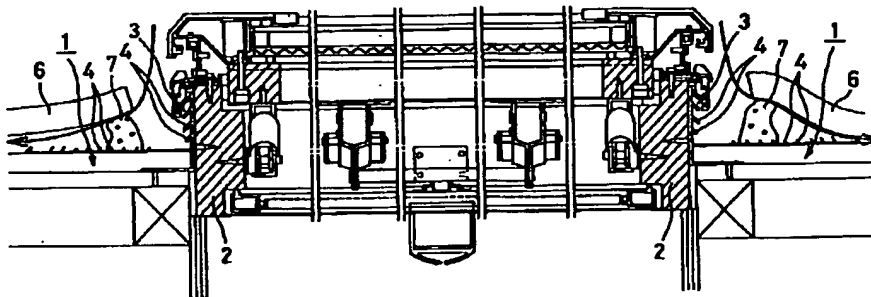
【図3】



【図5】



【図6】



PAT-NO: JP410266484A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 10266484 A

TITLE: WATER DRIP WATERPROOF STRUCTURE FOR DAYLIGHTING WINDOW

PUBN-DATE: October 6, 1998

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

OSABE, AKIHIRO

MIZOWAKI, KAZUO

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

MATSUSHITA ELECTRIC WORKS LTD

N/A

APPL-NO: JP09069460

APPL-DATE: March 24, 1997

INT-CL (IPC): E04D013/03

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To ensure the waterproofness between a water drip member and a tile by providing the gutter-like water drip member near to and along the side end edge of a daylighting window, and preventing the lateral running of rainwater below the tile.

SOLUTION: A gutter-like water drip member 8 is arranged near to and along the side end edge of a daylighting window. One erect wall section 9 provided on the water drip member 8 is fixed in contact with the side end face of the wood frame section 2 of the daylighting window. A bottom plate section 10 is mounted on the substrate face of a roof substrate section 1. Since the water drip member 8 is formed into a gutter shape, the other erect wall section 11 faces the erect wall section 9. A rainwater path is formed with a pair of erect wall sections 9, 11 to prevent rain water from flowing toward the tile side with the erect wall section 11, and rainwater can be drained downward from the eaves. A tile pressing piece 12 is extended at the upper end of the erect wall section 11 to prevent rainwater from infiltrating below a plain tile 5. The waterproofness between the daylighting window and the tile 5 can be ensured.

COPYRIGHT: (C)1998,JPO